

景 気 動 向 調 査

(第 127 回)

2002 年 7 月 ~ 9 月期予測

2002 年 10 月 ~ 12 月期予測

株式会社 北日本銀行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2002年9月下旬～2002年10月上旬
- 2．調査対象期間 2002年7月～9月期実績
 2002年10月～12月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業400社
- 5．回答数 232通（回答率58.0%）
 <内訳> 製造業76社 建設業61社 卸・小売業95社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 県内景況感ふたたび下向きに転じる ～

2002年7～9月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で79.9と前期76.7より3.2ポイント悪化し3期ぶりに下向きに転じた。

前回・前々回は変わらないとする企業が増加したことにより底を這っている状態が続いていると思われたが、今回調査により若干ではあるが下向きに転じたことで、今後の動向が注目される。

項目別に前回調査時（2002年4～6月期実績）と比較してみると、「売上高・出荷高」を始め「収益」も含めた業況に関するDIについては上向きの明るい結果がでているものの、「景況感」DIでは建設業が僅かながら上向いているほかは、全体で3期ぶりに下向きに転じている。「設備投資」に関しては2期連続で上向いているものの、その伸び率は僅かである。資金繰り状況については今後も厳しい見通しとなっている。

一方、国内経済全般をみると、全体として下げ止まっているものの、世界経済を巡る不透明感の強さもあって、回復へのはっきりとした動きはみられていない。物価は引き続き緩やかな下落傾向にある。内閣改造が行われ、金融機関への公的資金注入に前向きな竹中経済財政担当相が金融相を兼任することとなり、不良債権の抜本処理が進められる見通しでもあり、今後発表される政策を注視するとともに、経済活性化に繋がることを期待したい。

また、最近の岩手県内経済において個人消費は引き続き弱い動きとなっており、雇用情勢についても有効求人倍率が上昇したものの依然低水準であり厳しい状況が続いている。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第124回	01年10～12月	91.2
2	第109回	98年1～3月	90.6
3	第111回	98年7～9月	90.0
4	第108回	97年10～12月	89.7
5	第110回	98年4～6月	89.3

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について

全体のDIは、前回調査時に2期連続で上向きとなっていたが、今回調査では79.9と前期比3.2ポイント低下しふたたび下向きとなった。

また、各業種別のDIをみると、建設業で2.0ポイント改善されたものの、製造業で4.2ポイント、卸・小売業で6.1ポイントと低下した。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

各業種で上向いたが、特に製造業、卸・小売業で大きく上向き、全体でも上向いた。

(2) 生産高または仕入高

卸・小売業の仕入高は3期連続で上向き、製造業の生産高も大きく上向きに転じた。

(3) 在庫

製品・商品の在庫は、製造業で上向きに転じ、卸・小売業では「適正」とする企業が増加してきており、DIも上向いている。

(4) 収益

各業種とも前期に続き上向きとなっており、特に卸・小売業については大きく上向いている。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は前期4期振りに上向きに転じたがふたたび下向きとなり、仕入価格は3期連続で上向きとなった。

3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は17.6%と、前期に続き僅かではあるが上向いており、各業種でも上向いている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産販売能力の増加」「生産・販売能力の維持更新」の割合が引続き高くなっている。

4. 資金繰り状況について

製造業と卸小売業で連続で上向いたが、建設業では大きく下向いたことから全体でも下向きとなった。また、来期の見通しについては、全ての業種で下向きの予想となっている。

5. 経営上の問題点について

上位の4項目、「売上・受注不振」「収益不振」「販売価格安」「過当競争」は変わっていない。

1. 県内景況感について

～ 全業種ベースで3期ぶりに下向きに転じる～

〔7～9月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が0.9%（前期1.8%）、「悪い」が80.8%（同 78.5%）で、DIは79.9（同 76.7）と、3.2ポイント下げ、3期ぶりに下向きに転じた。

業種別の景況感（DI）をみると、建設業が77.0（同 79.0）と僅かながら上向いたものの、製造業が76.0（同 71.8）、卸・小売業が85.1（同 79.0）と下向いた。

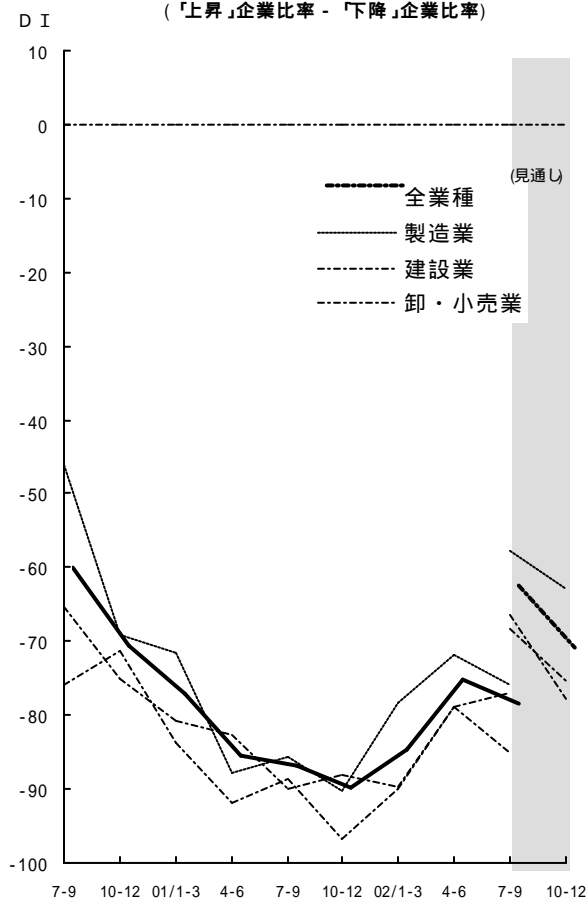
〔10～12月期の見通し〕 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が0.0%、「悪くなる」が72.3%であることから、DIは72.3となり、7～9月期実績と比較すると指標は7.6ポイントと上向く。

業種別にみると、製造業が76.0、建設業が77.0、卸・小売業が85.1となっており、7～9月期実績と比較して各業種とも上向くものの、「良くなる」とみる企業が全くない、回答結果であった。

県内景況感（前年同期比）

		（％）					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	7～9月 （実績）	0.9	0.0	18.3	49.1	31.7	-79.9
	10～12月 （見通し）	0.0	0.0	27.7	46.0	26.3	-72.3
（製造業）	7～9月 （実績）	0.0	0.0	24.0	45.3	30.7	-76.0
	10～12月 （見通し）	0.0	0.0	37.0	42.5	20.5	-63.0
（建設業）	7～9月 （実績）	3.3	0.0	16.4	41.0	39.3	-77.0
	10～12月 （見通し）	0.0	0.0	24.6	39.3	36.1	-75.4
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	0.0	0.0	14.9	57.4	27.7	-85.1
	10～12月 （見通し）	0.0	0.0	22.3	53.3	24.4	-77.7

県内景況感（前年同期比）
（「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率）



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 製造業および卸・小売業で大きく上向く ～

[7～9月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が23.5%(前期 13.5%)、「減少」が58.2%(同 66.5%)となり、D Iは34.7(同 53.0)と、大きく上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業 28.0(前期 45.8)、建設業 44.2(同 58.7)、卸・小売業 34.0(同 55.0)となった。各業種とも上向いたが、製造業および卸・小売業で特に大きく上向いた。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が17.8%、「減少」が53.8%であることから、D Iは36.0で、7～9月期実績と比較して、ほぼ横這いの予想となっている。

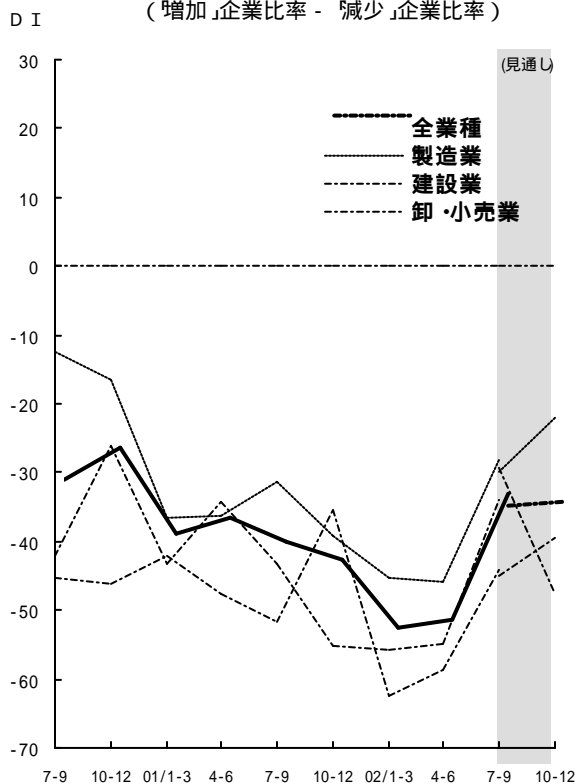
業種別にD Iをみると、製造業で21.9、建設業で47.5、卸・小売業で39.6となっており、7～9月期実績と比較して、業種によりバラツキがみられるがほぼ横這いの予想となっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	5.2	18.3	18.3	37.8	20.4	-34.7
	10～12月 (見通し)	3.1	14.7	28.4	40.9	12.9	-36.0
(製造業)	7～9月 (実績)	5.3	24.0	13.4	37.3	20.0	-28.0
	10～12月 (見通し)	5.5	16.4	34.3	31.5	12.3	-21.9
(建設業)	7～9月 (実績)	8.2	11.5	16.4	34.4	29.5	-44.2
	10～12月 (見通し)	3.3	14.8	16.3	44.3	21.3	-47.5
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	3.2	18.1	23.4	40.4	14.9	-34.0
	10～12月 (見通し)	1.1	13.2	31.8	46.2	7.7	-39.6

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業、卸・小売業ともに大きく上向く ～

[7～9月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が28.4%（前期15.8%）、「減少」が51.3%（同61.5%）で、DIは 22.9（同 45.7）と、大きく上向いた。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は16.6%（前期13.2%）、「減少」が48.9%（同65.3%）で、DIは 32.3（同 52.1）と大きく上向き、3期連続で上向きとなった。

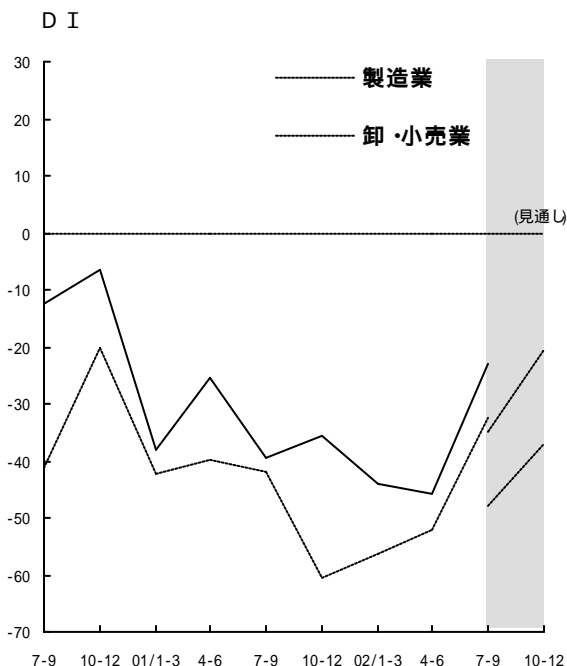
[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が23.3%、「減少」が43.8%であることから、DIは 20.5で、7～9月期実績と比較して、やや上向きとなる。

卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が 11.4%、「減少」が48.3%であることから、DIは 36.9となり、7～9月期実績と比較しやや下向きとなる。

生産高または仕入高 (前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	7～9月 (実績)	2.7	25.7	20.3	35.1	16.2	-22.9
	10～12月 (見通し)	5.5	17.8	32.9	31.5	12.3	-20.5
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	2.2	14.4	34.5	35.6	13.3	-32.3
	10～12月 (見通し)	1.1	10.3	40.3	43.7	4.6	-36.9

生産・仕入動向 (前年同期比)
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業の製品在庫、大きく上向く ～

[7～9月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は12.4%（前期6.0%）、「減少」が43.8%（同50.7%）であることから、DIは 31.4（同 44.7）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が6.3%（同14.1%）、「適正」が75.0%（同76.5%）、「不足」が18.7%（同9.4%）である。

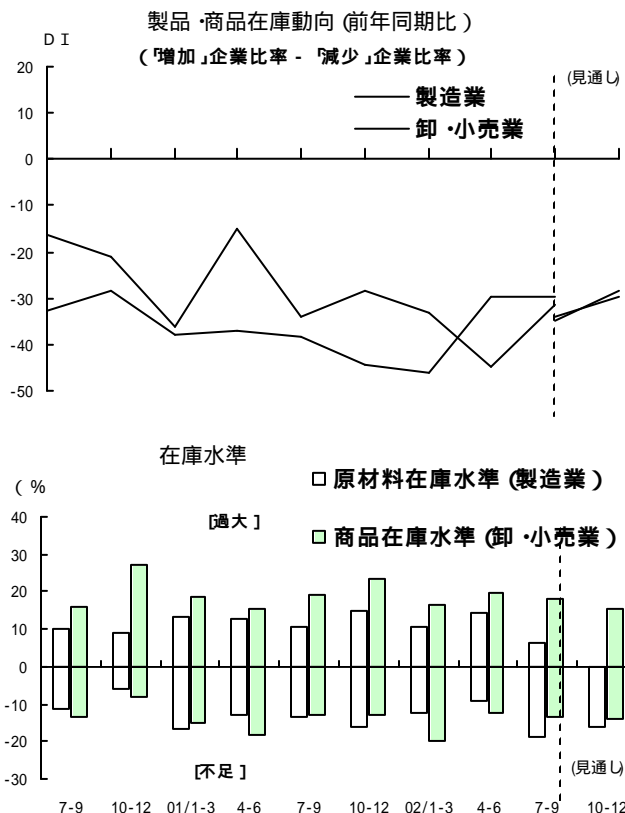
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が4.7%（前期9.3%）、「減少」34.2%（同39.2%）であることから、DIは 29.5（同 29.9）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が18.3%（同19.8%）、「適正」が68.3%（同68.1%）、「不足」が13.4%（同12.1%）である。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が14.3%、「減少」が 42.8%で、DIは 28.5となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が0.0%、「適正」が84.1%、「不足」が15.9%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が4.9%、「減少」が34.6%であることから、DIは 29.7となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が15.2%、「適正」が70.9%、「不足」が13.9%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	7～9月 (実績)	1.4	11.0	43.8	37.0	6.8	-31.4
	10～12月 (見通し)	2.9	11.4	42.9	37.1	5.7	-28.5
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	0.0	4.7	61.1	27.1	7.1	-29.5
	10～12月 (見通し)	0.0	4.9	60.5	32.1	2.5	-29.7



(4) 収 益

～ 2期連続で上向く ～

[7～9月期の実績] 収益動向実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が16.4%(前期14.2%)、「減少」が54.9%(同59.3%)であり、D Iは38.5(同45.1)となり、2期連続で上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業26.4(前期26.8)、建設業61.0(同63.6)、卸・小売業33.7(同48.0)となり、各業種で上向いた。

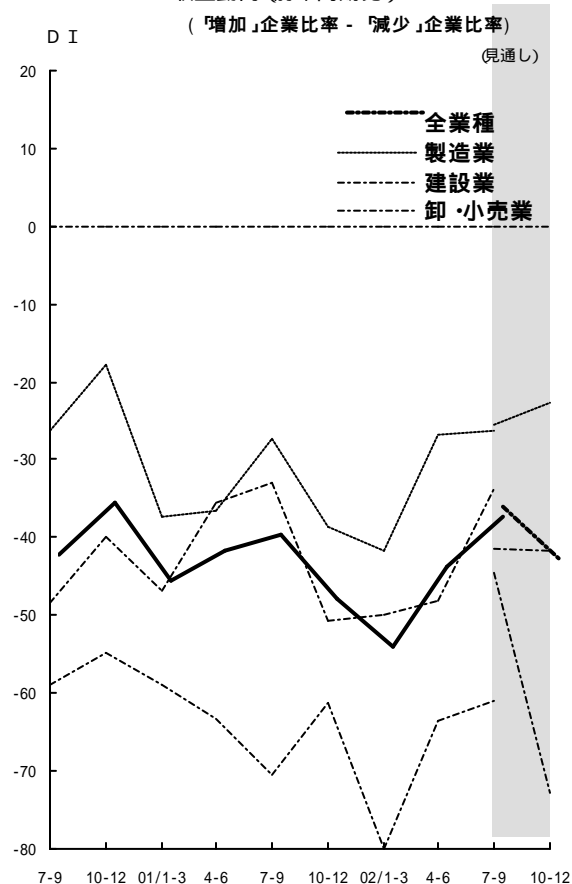
[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が13.7%、「減少」とみる企業が57.8%であることから、D Iは44.1で、7～9月期実績と比較して若干下向く見通し。

業種別にD Iをみると、製造業は22.8、建設業72.9、卸・小売業41.6であり、7～9月期実績と比較して、建設業の大きく下向く予想である。

収 益 (前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	0.9	13.3	26.5	31.9	27.4	-45.1
	10～12月 (見通し)	0.9	14.1	32.7	32.3	20.0	-37.3
(製造業)	7～9月 (実績)	1.4	19.7	31.0	21.1	26.8	-26.8
	10～12月 (見通し)	1.5	17.9	35.8	29.9	14.9	-25.4
(建設業)	7～9月 (実績)	0.0	7.3	21.8	29.1	41.8	-63.6
	10～12月 (見通し)	1.9	13.0	25.8	27.8	31.5	-44.4
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	1.0	12.0	26.0	41.0	20.0	-48.0
	10～12月 (見通し)	0.0	12.1	34.3	36.4	17.2	-41.5

収益動向 (前年同期比)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格3期連続で上向き ～

[7～9月期の実績] 販売価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が2.7%(前期4.5%)、「低下」が50.5%(同49.7%)であることから、DIは47.8(同45.2)と、ふたたび下向きとなった。

仕入価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が7.1%(前期7.1%)「低下」が25.6%(同28.3%)であることから、DIは18.5(同21.2)となり、3期連続で上向きとなった。

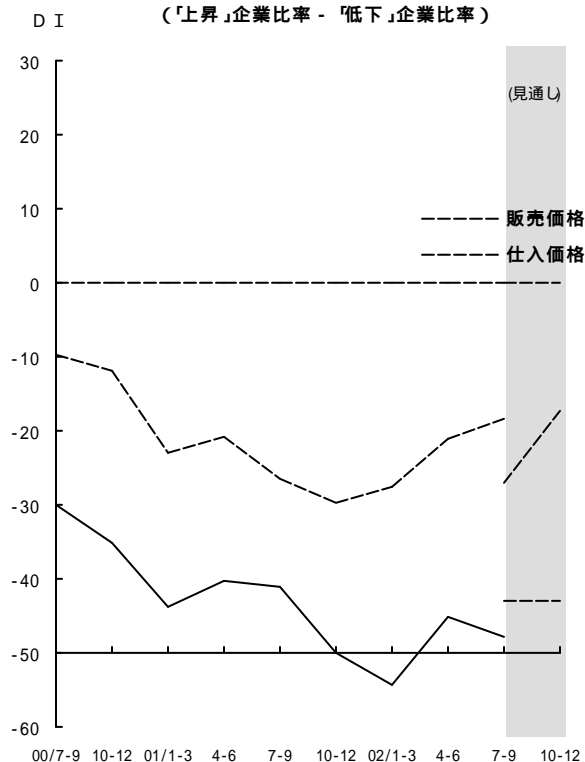
[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、販売価格について「上昇」とみる企業が4.6%、「低下」とみる企業が47.5%であることから、DIは42.9で7～9月期実績と比較して若干上向きとなる。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が9.2%、「低下」とみる企業が26.6%であることから、DIは17.4で、7～9月期実績と比較して若干上向きとなる。

販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	7～9月 (実績)	0.0	2.7	46.8	44.2	6.3	-47.8
	10～12月 (見通し)	0.5	4.1	47.9	39.7	7.8	-42.9

価格動向(前年同期比)
(「上昇」企業比率 - 「低下」企業比率)



仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	7～9月 (実績)	0.4	6.7	67.3	24.7	0.9	-18.5
	10～12月 (見通し)	1.4	7.8	64.2	25.7	0.9	-17.4

3.設備投資の動向について

(1)設備投資の実施状況

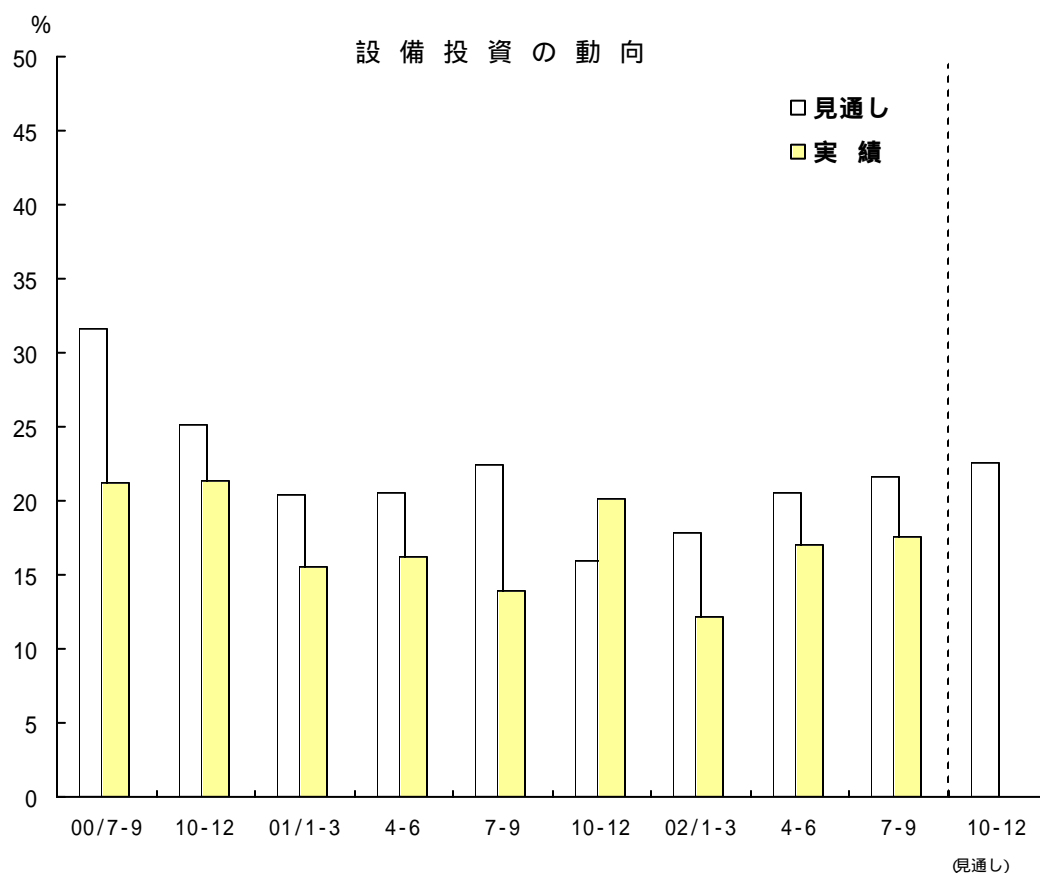
～ 2期連続で上向く ～

[7～9月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は17.6%（前期17.0%）で、2期連続で上向いた。

これを業種別にみると、製造業が20.0%（前期22.0%）、建設業13.2%（同8.8%）、卸・小売業18.7%（同18.2%）と、建設業と卸・小売業で上向いている。

[10～12月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で11.3%（前期9.9%）、「計画はあるが具体化していない」は11.3%（同11.7%）、「計画はない」は77.4%（同78.4%）であった。「計画あり」は合計22.6%（同21.6%）とやや上向いたものの、依然として低水準となっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で28.8%（前期27.9%）、建設業で14.8%（同17.6%）、卸・小売業で13.7%（同19.6%）と、建設業と卸・小売業でやや下向いている。



(2) 設備投資の目的

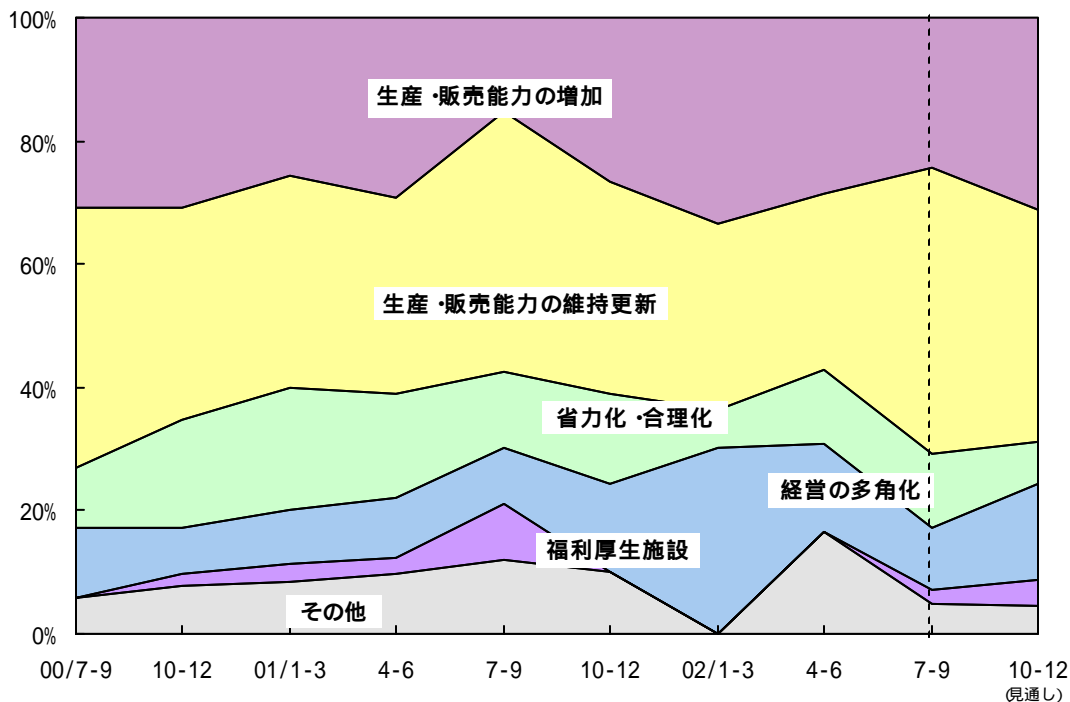
[7~9月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(17.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」46.3%(前期28.6%)が前回に引続きトップ、前回同率トップだった「生産・販売能力の増加」24.4%(前期28.6%)が続き「省力化・合理化」が12.2%(同11.9%)、「経営の多角化」が9.8%(前期14.3%)の順となっている。

業種別にみると、全ての業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっている。

[10~12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(22.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が37.8%(前期37.0%)と最も多く、以下、「生産・販売能力の増加」が31.1%(同26.1%)、「省力化・合理化」15.6%(同26.1%)の順位となっている。

投資目的については全業種で「生産能力の維持更新」がトップとなっている。

設 備 投 資 の 目 的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 製造業、卸・小売業で連続上向く ～

[7～9月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が8.7%(前期10.5%)、「苦しくなった」が42.6%(同42.6%)であることから、D Iは33.9(同32.1)とやや下向いた。

業種別にD Iをみると、製造業が22.9(前期26.8)、建設業が54.1(同38.0)、卸・小売業が29.5(同32.3)であり、製造業と小売業は上向いたものの建設業が下向いた。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が6.7%、「苦しくなる」が44.4%であることから、D Iは37.7となり、7～9月期実績(33.9)と比較して下向きとなる。

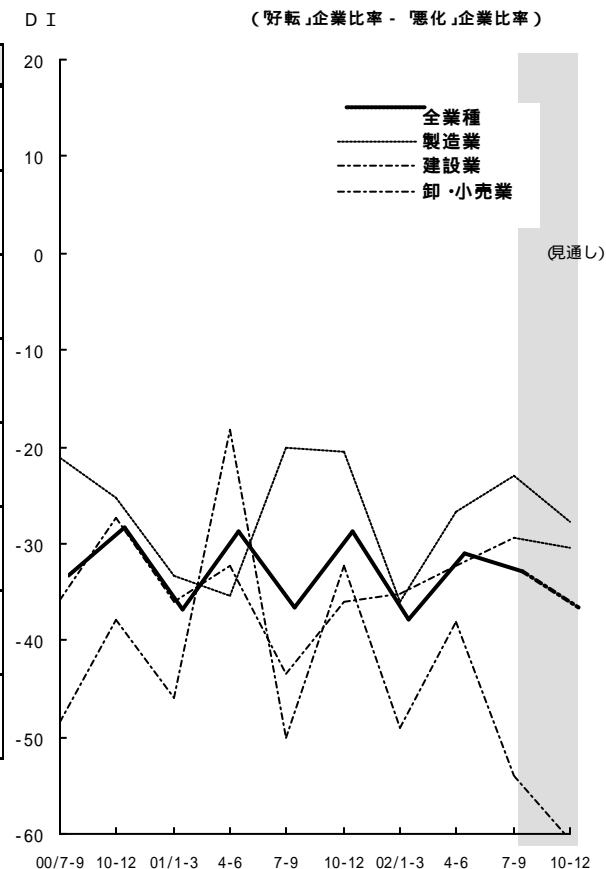
業種別にD Iをみると、製造業27.8、建設業60.6、卸・小売業30.5となっており、全ての業種で悪化することを予想している。

資金繰り(前期比)

		(%)					D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	7～9 (実績)	0.4	8.3	48.7	28.7	13.9	-33.9
	10～12 (見通し)	0.0	6.7	48.9	31.1	13.3	-37.7
(製造業)	7～9 (実績)	0.0	14.9	47.3	27.0	10.8	-22.9
	10～12 (見通し)	0.0	12.5	47.2	29.2	11.1	-27.8
(建設業)	7～9 (実績)	0.0	3.3	39.3	36.1	21.3	-54.1
	10～12 (見通し)	0.0	0.0	39.4	39.3	21.3	-60.6
(卸・小売業)	7～9 (実績)	1.1	6.3	55.7	25.3	11.6	-29.5
	10～12 (見通し)	0.0	6.5	56.5	27.2	9.8	-30.5

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率)



(2) 現金・預金

[7～9月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が10.1%（前期8.4%）、「減少した」が49.1%（同48.5%）であることから、DIは39.0（同40.1）と、やや上向きとなった。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が8.1%、「減少する」が47.0%であることから、DIは38.9（当期39.0）でほぼ横這いの予想となっている。

(3) 金融機関借入

[7～9月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が19.9%（前期14.9%）、「減少した」が31.0%（同37.4%）であることから、DIは11.1（同22.5）と大きく上向いた。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が22.5%、「減少する」が23.4%であることから、DIは0.9（当期6.0）と、上向き予想となっている。

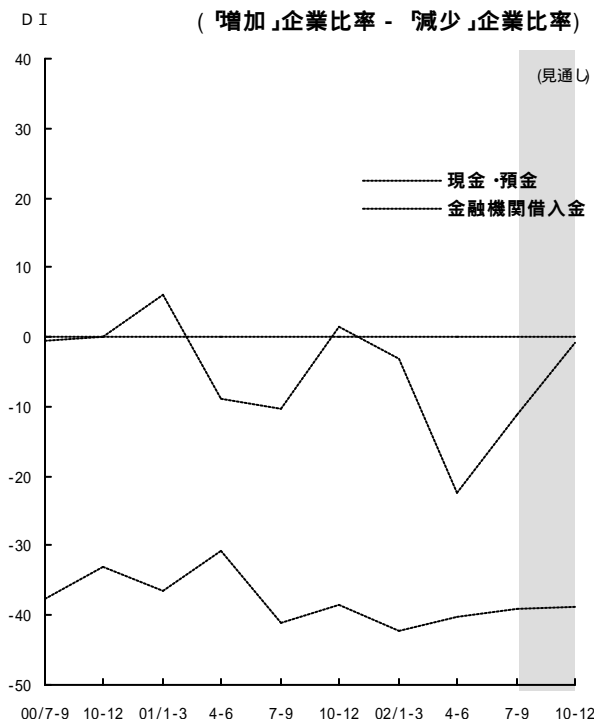
現金・預金（前期比）

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9 （実績）	0.4	9.7	40.8	33.2	15.9	-39.0
	10～12 （見通し）	0.0	8.1	44.9	31.2	15.8	-38.9

金融機関借入金（前期比）

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9 （実績）	3.5	16.4	49.1	24.8	6.2	-11.1
	10～12 （見通し）	4.6	17.9	54.1	19.7	3.7	-0.9

現金・預金動向（前期比）
金融機関借入金（前期比）
（「増加」企業比率 - 「減少」企業比率）



(4) 販売代金回収期間

[7~9月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が2.2%(前期4.5%)、「長くなった」が21.7%(同20.5%)であることから、DIは19.5(同16.0)となった。また、76.1%(同75.0%)の企業は「変わらない」としている。

[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が1.4%、「長くなる」が21.31%であることから、DIは19.9(当期19.9)となる。また、77.3%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[7~9月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が5.4%(前期4.0%)、「短くなった」が4.4%(同5.4%)であることから、DIは1.0(同1.4)となった。また、90.2%(同90.6%)の企業は「変わらない」としている。

[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が5.1%、「短くなる」が4.2%であることから、DIは0.9(当期1.0)となる。また、90.7%の企業は「変わらない」とみている。

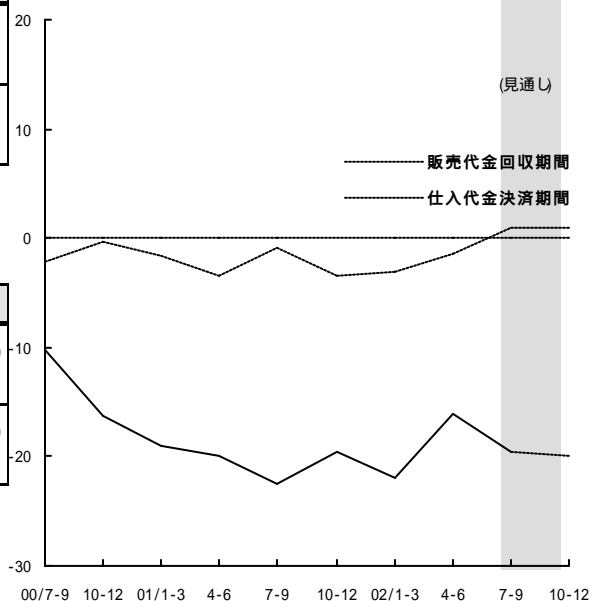
販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
期	短く	やや短	不変	やや長	長く		
全業種	7~9 (実績)	0.0	2.2	76.1	18.6	3.1	-19.5
	10~12 (見通し)	0.0	1.4	77.3	17.2	4.1	-19.9

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
期	長く	やや長	不変	やや短	短く		
全業種	7~9 (実績)	0.0	5.4	90.2	3.1	1.3	1.0
	10~12 (見通し)	0.0	5.1	90.7	2.8	1.4	0.9

販売代金回収期間動向(前期比)
 (「短くなった」企業比率 - 「長くなった」企業比率)
 仕入代金決済期間動向(前期比)
 (「長くなった」企業比率 - 「短くなった」企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 「売上・受注不振」 が依然トップ ～

7～9月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」34.1%（前期36.1%）、「収益不振」19.2%（同20.1%）、「販売価格安」15.4%（同10.0%）「過当競争」13.3%（同16.1%）の順となり、再び「販売価格安」と「過当競争」が順位入替えた。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」33.1%（前期34.1%）、「販売価格安」21.1%（同11.4%）「収益不振」15.0%（同18.2%）。建設業では「受注不振」39.8%（同41.4%）、「収益不振」25.4%（同18.0%）、「過当競争」18.6%（同21.6%）。卸・小売業では「売上不振」31.4%（同34.8%）、「収益不振」17.8%（同23.0%）、「販売価格安」16.0%（同10.2%）となっている。いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「収益不振」「過当競争」「販売価格安」が上位を占めている。

